

研修員's VOICE

Vol. 24

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。



琉装体験をするリヴァンさん

氏名： Ms. BAZZAZ Rivan Abdulkhaleq Abbas

国名： イラク共和国 (リヴァンさん)

研修期間： 2019年1月30日 ~ 2019年6月11日

コース名： 行政サービス改善のための
ICT活用：CIO補佐



イラクってどんな国？

アジア大陸西南部に位置するイラクは、メソポタミア文明の発祥地で、石油の産出量が豊富です。イラクと言うと紛争地域を想像する方も多いと思いますが、私の出身地であるイラク北東部クルド人自治区は1996年以降、政治的にも経済的にも安定し、比較的治安も良い地域です。人口は約520万人(2017年)、山岳部と砂漠があり、夏は43℃、冬は-5℃と寒暖差のある気候で、イスラム教スンニ派、シーア派、キリスト教、ヤジディ教など多様な宗教が共存します。クルド自治政府は人材育成にも力を入れており、私は政府の奨学金により英国にて修士号を取得、現在は政府のIT運用責任者として勤務しています。



クルド民族の像とアルビール城塞(世界遺産)

どんな研修をしていますか？

研修では、チーフインフォメーションオフィサー(CIO)として、情報を効果的に管理し適切に運用することの重要性を学んでいます。研修を通して、日本とクルドのシステムの差はあまり感じませんが、システムを運用/管理する人材の差を感じます。日本ではあるレベルで満足せずに、常に「どこを改善できるか」と考える改善の概念があり、とても大事なことでと思います。プレゼンテーションやリーダーシップ、交渉術、問題解決といったヒューマンスキル研修がありましたが、人材の教育はとても重要であり、経費もあまりかからないことから、自国でもぜひ実施したいと思います。



グループでの課題の討議

日本での学びと今後の活動

日本の企業では、女性が多く職種に就き、男女の枠に捉われずに働いていることが印象的です。自国ではICT分野は男性の職場という先入観があります。女性の活躍の場が広がるよう私自身も道を切り開いていきたいです。

帰国後は、研修で学んだことを同僚に共有するとともに、政府職員のICTリテラシーの向上を目標にしています。全ての職員がITを使えるようになることが、電子政府化に向けた第一歩になりますが、現段階ではIT化による失職を懸念しIT化を拒否する人もいます。まずは職員の意識を変えることから始めていきたいと思っています。



クラスでのプレゼンテーションの様子

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。